

平成27年度行動科学科夏季オープンキャンパスプログラム

◆参加者設定人数：370名×2回

◆会場：

学科説明：105講義室（408名）（ ）は最大収容人数

講座説明：哲学講座：103講義室（72名）、認知情報科学講座：106講義室（218名）

心理学講座：105講義室（408名）、社会学講座：101講義室（170名）

文化人類学講座：102講義室（72名）

◆内容

1. 全体ガイダンス（50分） 担当：学科長

1) 行動科学科の紹介 2) 先進科学プログラム人間探求コースの紹介 3) 卒業後の進路など

4) 質疑応答

休憩・教室移動（10分）

2. 各講座の説明並びに模擬授業（30分：同時開講）

◆哲学講座：「自由について」 担当：秋葉剛史

哲学というのはちょっと変わった「学問」です。というのも哲学は、私たちがふだん当たり前だと思っていることからスタートしてその上に知識を築きあげるといっても、そう思っていたことが本当はぜんぜん当たり前でなかった、ということをしばしば教えてくれるからです。今回の授業では、とくに「自由」という概念に注目してこのことを示したいと思います。新たな謎に出会うワクワク感をぜひ味わってみてください。

◆認知情報科学講座：「認知情報科学とは」 担当：松香敏彦

認知は、外界から情報を取り入れ、処理し、脳内に表現し、記憶し、そして、それに基づいて行動する過程全てを含みます。このように「こころ」を情報処理の観点からとらえなおすことで、ヒトをコンピュータやヒト以外の動物と比較することができます。模擬講義では、認知情報科学講座で学べる認知の計算論や対話分析、比較認知などを概観します。中でも知識の表象について、人間の行動実験と計算モデル・シミュレーションを用いた認知科学の研究を紹介します。

◆心理学講座：「心理的な個人差の起源：文系・理系はなぜ違うのか」 担当：若林明雄

心理学では、人間の認知機能（能力や性格など）や行動についての一般法則とともに、それらの個人差についても研究しています。人間には様々な個人差がありますが、その中で高校生にとっても関連が深い「文系・理系」という興味や適性の指向性の違いがどのようにして生じてくるのかという問題について、最新の研究を紹介し、人間の個人差の謎を解明していきます。

◆社会学講座：「社会学的思考とは」 担当：米村千代

私たちが日々意識することなく送っている日常生活から社会問題や国際関係まで、社会学の領域は幅広く、取り扱うテーマも多岐にわたっています。「社会学的に見る」とはどのようなことか、社会学の特徴はどこにあるのか、社会学講座では何を学ぶのかなどについて、卒業論文や社会調査実習の内容も紹介しながら説明します。

◆文化人類学講座：「バナナやイモから人間の多様性を考えてみる」 担当：小谷真吾

文化人類学は、人間の行為や思考の多様性を、文化という概念を通じて研究する学問です。例えば、人間の生物学的形質はある程度同一であるにもかかわらず、世界中には様々な食材、料理法が存在するように、文化は多様性の源です。模擬授業では、担当教員が調査を行っているニュー

ギニアやマレーシアの食生活を題材に、文化人類学の研究目的や方法論を紹介していきます。

3. 各講座の研究室案内等（30分：在校生による学生生活の紹介なども含みます。）

平成27年度史学科夏季オープンキャンパスプログラム

◆参加者設定人数：200名（各回）

◆会場：総合校舎C-11講義室（最大223名）

◆内容

1. 全体紹介（25分）（学科長）・文学部紹介・史学科紹介・卒業後の進路
2. 在学生による学科紹介（約20分） 休憩（10分）
3. 模擬授業（各25分）

(1) 「ローマ帝国の祝祭：皇帝生誕祭とクリスマス」 担当：保坂高殿教授

古代のローマ人は一年の過半数を祝祭行事に割り当てるほどに宴会好きで、神々への感謝祭の他にも過去の国家的慶事や為政者の誕生日も公式に祝いましたが、一方で、それとは対照的にキリスト教の指導者らはこれを徹底的に忌避しました。4世紀に至り教会がクリスマスを導入せざるを得なかった事情をも含め、模擬授業では古代世界における祝祭の持つ意味について説明します。

(2) 「大学で学ぶオスマン帝国史：オスマン社会に生きる人々」 担当：秋葉淳准教授

高校世界史で勉強するオスマン帝国の歴史は、征服戦争や軍隊、国家の仕組みなどが中心です。では、オスマン帝国下の社会で、人々はどのような生活を営んでいたのでしょうか。また、それはどのようにすれば知ることができるでしょうか。この模擬授業では、オスマン社会に生きる人々の生活、とくに女性に焦点を当てて、歴史研究の一端をご紹介します。

4. 教員、在学生との質疑応答（15分）

平成27年度日本文化学科夏季オープンキャンパスプログラム

◆参加者設定人数：200名（各回）

◆会場：総合校舎C-12（最大223名）

◆内容

1. 説明（約50分）

- 1) 学部紹介（学科長） 2) 学科紹介（教務委員） 3) 入試情報（入試委員）
4) 進路状況（学生委員） 5) 在学生の話・学習について・生活について

<休憩>（約10分）

2. 模擬授業（約20分×2）

(1) 「日本の先住民族アイヌ」担当：中川 裕 教授

日本は多くの民族が混住する多民族国家である。中でもアイヌ人は日本の先住民族であり、日本語とはまったく異なるアイヌ語という独自の言語を話している。そして、現在でもその独自の言語や文化を守ろうとしてさまざまな活動が行われている。その実態を紹介して、「日本文化」とは何

かということ、今一度問い直してみたい。

(2)「文学は戦争をどう描いたか—「空襲」の語られ方から」 担当：大原 祐治 准教授

アニメ映画にもなった野坂昭如『火垂るの墓』の例に見られるように、日本の近現代文学はしばしば戦争を扱っているが、こうした作品の中で悲劇のクライマックスとなる「空襲」の場面はどのように描かれていたのだろうか。戦時下における法制度や教育のあり方なども検証しつつ、様々な角度から文学作品における「空襲」表象を捉えてみたい。

3. 個別相談会（約 20 分）

全体プログラム終了後、日本文化学科の教員・在学生が皆さんからの個別相談に直接お答えいたします。

平成27年度国際言語文化学科夏季オープンキャンパスプログラム

◆参加者設定人数：450名×2回

◆会場：総合校舎B号館

◆内 容

第1部（85分）

1.学部・学科紹介：学科長

文学部・国際言語文化学科の教育と研究、スーパーグローバル、国際日本学、留学制度、取得可能な資格について

2.各コース紹介：各コース教員

比較文化論コース

ヨーロッパ文化論コース

英語圏文化論コース

言語構造論コース

（フランス語とスペイン語の授業の映像紹介も行います）

3. 卒業後の進路：学生委員

4. 在学生による学科紹介：

- ・大学生活について 卒業論文に向けての学科での授業、グローバル・ヴォランティア等
- ・留学体験について ロシア留学、スペイン留学

5. 質疑

休憩（10分）

第2部（25分）

6. 模擬授業(20分)

Art and Realism. Andrew Rayment Ph.D.(Associate Professor)

Outline:

1. Introductory discussion: Paintings the students know / like.
2. Group discussion on similarities/differences between Picasso's 'Weeping Woman' and John Singer Sargent's 'Lady Agnew of Lochnaw'.
3. Feedback discussion: Which painting is more 'realistic'?

(和訳) 「芸術とリアリズム」 アンドリュー・レイメント准教授

概要:

1. 導入ディスカッション：学生が知っている、または、好きな絵画
 2. グループディスカッション：ピカソの「泣く女」とジョン・シンガー・サージェントの「レディー・アグニュー」における類似点・相違点について
 3. フィードバックディスカッション：どちらの絵画のほうがより「現実的/写實的」か。
(模擬授業は英語で行われますが、随時、日本語の説明が入ります。)
7. まとめと「在校生によるキャンパス案内」紹介
- ◆説明会終了後、以下も実施致します。(ご自由にご参加ください)
- 1) 個別質問受付：教員・学生
 - 2) 在学生(1～3年生)によるキャンパス案内「先輩と歩いてみよう！ 先輩にきいてみよう！」